

追悼 阿知波五郎先生

長門谷 洋治



阿知波五郎先生が亡くなられた。先生は医史学の面で大きな業績をあげられた。わが国の医学がとくに欧米諸国の影響を受けつつ、独自の体系を樹てた道程を、おびたしい内外の史・資料を参照、外国へまで足を連んでの綿密・周到な調査・探索により、スケールの大きい、それでいて一点一画もゆるがせにされない重厚・華麗な筆で見事に説き明かされ、前人未踏の分野を開かれた。それらの一端は「近代日本外科学の成立」(昭四二)、「ヘルマン・ブールハーヴェ」(昭四四)、「近代日本の医学」(昭五七)などにみることができ、京都府医師会になる

「京都の医学史」(昭五五)においても、先生の貢献による部分が大い。

その人格は神のごとくであったが、ことに京都で産婦人科医であり、医史学者でもあった佐伯理一郎氏を尊敬され、日本医史学会関西支部の中野操先生を敬慕されること深く、出身大学(九大)の先輩・三木栄先生との交流はまことに太くかつうるわしいもので、同先生との共著「人類医学年表」(昭五二)がある。内外に知己が多く、英国のギヤスリー氏、オランダのリンデブイム氏(ともに医史学者)とはとくにお親しかった。

陸軍軍医としては重要な位置におられたが、戦後は京都市北区で開業、患家の信頼を一身に集めておられた。山脇東洋の「蔵志図」をはじめ貴重品を含む阿知波コレクションは有名だが、快くその出展に応じられ、気軽におみせ下さり、お教え下さった。永年日本医史学会の理事をつとめられた。

数年来、パーキンソン病様の症状を自覚せられるようになり、ご家族のかたともども鋭意回復につとめられたが、その進行をくいとおめることはできず、ついに昭和五十八年二月十二日、京大病院で逝去された。享年七十八歳。

ご冥福を祈る。